

12月3日

川崎に浮世絵の展示室がオープンします！

川崎の歴史文化資源である、公益社団法人川崎・砂子の里資料館が所有する浮世絵コレクションの活用に向けて、公益財団法人川崎市文化財団と公益社団法人川崎・砂子の里資料館、川崎市の三者が連携し、本年12月3日、川崎駅北口通路直結の川崎駅前タワー・リパーク内に、展示室「川崎浮世絵ギャラリー ～斎藤文夫コレクション～」を新たに開館しますので、概要についてお知らせします。

本展示室の開館により、本市の文化芸術振興施策をより一層推進するとともに、国内外からの誘客や回遊性の向上を図り、新たなにぎわいを創出し、本市の魅力を発信していきます。

■「公益社団法人川崎・砂子の里資料館」の浮世絵コレクションについて

- 1 希少な作品を含む豊富なコレクション
 - ・所蔵数は約4,000点、希少性の高い浮世絵肉筆画(原画)も約100点と充実
 - ・「東海道五十三次」や「富嶽三十六景」などの続き物を全作品揃えるなど高い希少性
- 2 川崎の郷土と浮世絵
 - ・川崎や神奈川にゆかりのある作品を起点とする高い郷土性、東京の作品を中心に収集範囲を拡大
- 3 歴史体系に沿ったコレクション
 - ・収集当初は、川崎や神奈川に特化した作品を収集、後に歴史を追った系統的収集へ変化
 - ・特定の絵師やジャンル、時代に偏らない浮世絵の包括的なコレクション
- 4 国内外での豊富な展示実績と高い評価
 - ・「斎藤文夫コレクション」と冠した展覧会実績(三菱一号館美術館、平塚市美術館 ほか)
 - ・海外での展示、作品貸し出し実績(ワシントンDC・日本広報文化センター、フランス・トゥールーズ＝ロートレック美術館、ローマ・アラパチス博物館 ほか)

1 これまでの経過と三者の連携した取組について

(1) これまでの経過

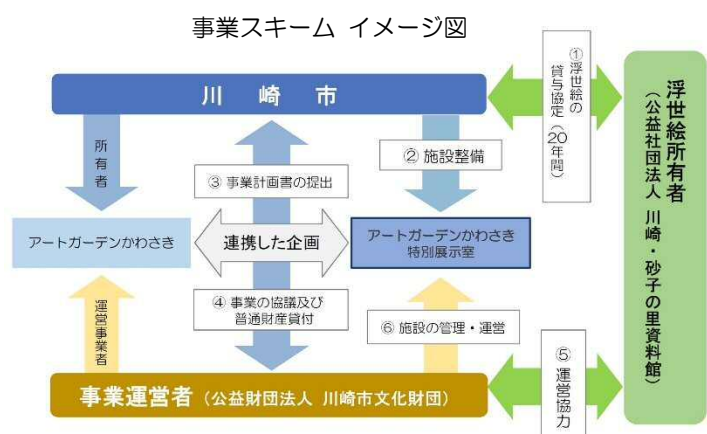
平成28年9月	川崎・砂子の里資料館休館(平成13年11月に開館、約15年間運営)	} ※いずれも、川崎市ホームページでご覧いただけます
平成30年6月	川崎市「浮世絵等の活用に向けた基本方針」策定	
平成30年7月	川崎市「浮世絵等の活用に向けた基本計画」策定	
平成30年8月	「浮世絵等の美術品の活用に関する基本協定書」締結	

(川崎市、公益社団法人川崎・砂子の里資料館)

(2) 三者の連携した取組

以下の役割分担のもと、展示室の整備及び運営を行います。

- 川崎市
 - ・展示室の整備
- (公財)川崎市文化財団
 - ・展示室の管理・運営
- (公社)川崎・砂子の里資料館
 - ・所有作品の無償貸与
 - ・展示の企画立案等の運営協力



2 展示室の開館について

(1) 開館日

令和元年 12 月 3 日（火）

- ・前日の 12 月 2 日（月）に、関係者及び報道機関等に向けた内覧会を開催します。
※内容等の詳細が決まり次第、別途お知らせします。

(2) 施設名称

対外的な呼称：川崎浮世絵ギャラリー ～斎藤文夫コレクション～

正式名称：アートガーデンかわさき特別展示室

※広報等には「川崎浮世絵ギャラリー ～斎藤文夫コレクション～」を基本的 사용합니다。

(3) ロゴマーク

展示室のロゴマークを以下のとおり決めました。



<コンセプト>

歌川広重（初代）「東海道五拾三次之内 川崎 六郷渡舟」に描かれている、力を込めて棹をさす「六郷の渡し」の船頭をシルエットとしてデザイン化しました。



歌川広重(初代)「東海道五拾三次之内 川崎 六郷渡舟」

(4) 展覧会開催予定

① 川崎浮世絵ギャラリー

第 1 回 開館記念 日本の宝これぞ浮世絵名品展

12 月 3 日～令和 2 年 1 月下旬

(※会期中展示替えあり)

第 2 回 初代広重 東海道五十三次の旅（保永堂版）

令和 2 年 2 月上旬～2 月下旬

第 3 回 幕末・明治の浮世絵師が見た江戸・東京

令和 2 年 3 月上旬～3 月下旬

② アートガーデンかわさき

開館記念展として、アートガーデンかわさきの展示室でも肉筆画を中心とした浮世絵の展示を行います。

【備考】

○ 川崎浮世絵ギャラリーの詳細は、別紙 1 を参照してください。

○ 「(4) 展覧会開催予定」の内容は、別紙 2 を参照してください。

※展覧会の内容は今後変更となる可能性があります。詳細が決まり次第、別途お知らせします。

【問い合わせ先】

「1 これまでの経過と三者の連携した取組」について

川崎市市民文化局 市民文化振興室 永石

電話：044-200-2294 FAX：044-200-3248

「2 展示室の開館」について

川崎市文化財団アートガーデンかわさき特別展示室準備担当 瀬戸

電話：080-8750-3991 FAX：044-544-9647

「川崎浮世絵ギャラリー ～斎藤文夫コレクション～」展示室について

1 施設の概要

所在地 : 川崎市川崎区駅前本町 12-1 川崎駅前タワー・リパーク 3階

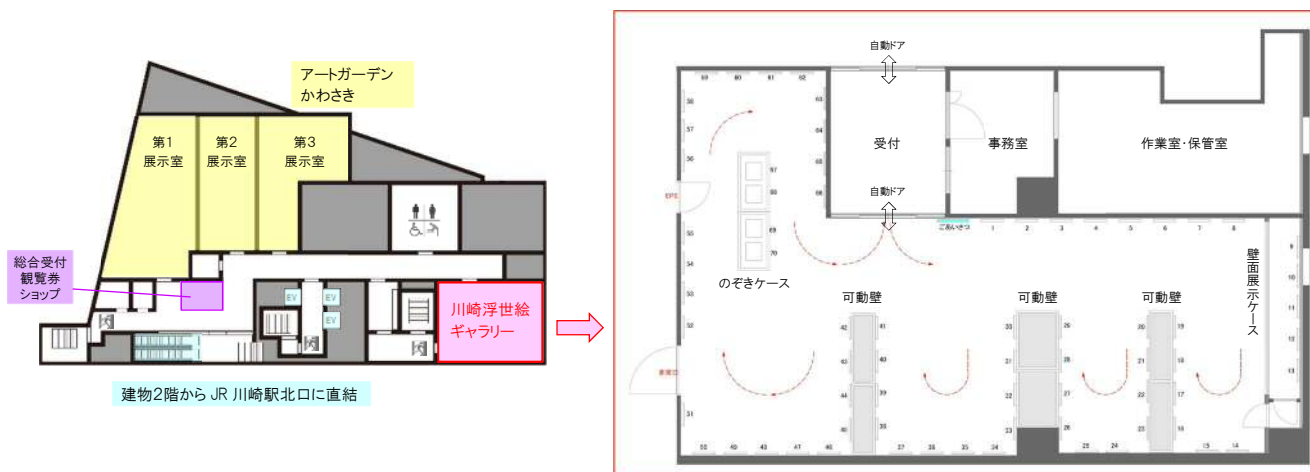
面積 : 施設全体で約 150 m²、うち展示スペースは約 100 m²

展示点数 : 50 点から 70 点を想定

休館日 : 月曜日、年末年始、展示替えの期間

開館時間 : 11 時から 18 時 30 分まで

観覧料 : 500 円 (ただし高校生以下、障がい者とその介護者 1 名は無料)



2 施設の立地状況

○JR 川崎駅北口直結で、「かわさき きたテラス」や東海道かわさき宿交流館との連携が可能

○京急川崎駅からも至近、羽田空港からの訪日外国人等の誘客も期待



かわさき きたテラス



東海道かわさき宿交流館

展覧会開催予定

開館記念 日本の宝これぞ浮世絵名品展

開館記念展は、斎藤文夫コレクションが誇る浮世絵作品から名品だけをセレクトし、版画約 90 点、肉筆画約 15 点の約 105 点を、前期・後期に分けて展示します。菱川師宣、奥村政信、鈴木春信、喜多川歌麿など、浮世絵が誕生した 17 世紀後期から、錦絵と呼ばれる多色摺りの技法が確立する 18 世紀後期までの、浮世絵の歴史の前半を彩った作品の変遷をご堪能ください。

会期 12 月 3 日(火)～令和 2 年 1 月下旬 (※会期中、展示替えを行います)

観覧料 500 円 (ただし高校生以下、障がい者とその介護者 1 名は無料)

<主な出展作品>

①



③



④



②



- | | |
|---------|----------------|
| ① 菱川師宣 | 若衆弦楽図 |
| ② 奥村政信 | 小姓さん路 草かり笛 |
| ③ 懐月堂度繁 | 美人立姿図 |
| ④ 鈴木春信 | 風流やつし七小町 草紙あらひ |

<開館記念> アートガーデンでも肉筆画の展示を行います！

開館記念企画として、斎藤文夫コレクションから肉筆画約 60 点をアートガーデンかわさきで展示します。開館から最長 2 週間の限定企画です。川崎浮世絵ギャラリーと合わせてご覧いただき、絵師固有の筆使いや色彩の多様性など、一作品一点の肉筆画ならではの魅力をご堪能ください。

会期	① 12 月 3 日(火)～12 月 8 日(日) アートガーデンかわさき第 1～第 3 展示室
	② 12 月 10 日(火)～12 月 15 日(日) " 第 1 展示室
観覧料	無料 (ただし、川崎浮世絵ギャラリーの当日観覧券が必要です)

初代広重 東海道五十三次の旅（保永堂版）

江戸初期から整備された街道は当初、参勤交代の大名や行商人、巡礼者などが利用していましたが、幕末近くには湯治や観光などで庶民の利用も多くなりました。本展では、歌川広重の代表作である保永堂版（ほえいどうばん）「東海道五拾三次之内」の大判錦絵全 55 枚を一挙に展示します。街道を行き交う様々な人々を、季節や時間、天候など多彩な手法で表現した作品をご堪能ください。また、日本橋や川崎など 5 点は別摺版も展示し、摺りの変化の様子もお楽しみいただけます。

会期	令和 2 年 2 月上旬～ 2 月下旬
観覧料	500 円（ただし高校生以下、障がい者とその介護者 1 名は無料）

<主な出展作品>



初代歌川広重 東海道五拾三次之内 箱根 湖水図



初代歌川広重 東海道五拾三次之内 蒲原 雪之夜

幕末・明治の浮世絵師が見た江戸・東京

嘉永 6 (1853) 年のペリーの浦賀への来航と、それに続く安政 5 (1858) 年の日米修好通商条約の締結により、200 年以上続いた鎖国は終わり、我が国は幕末の動乱から明治維新へという激動期を迎えました。本展では、この時代を代表する浮世絵師である月岡芳年や河鍋暁斎、小林清親などの作品を展示し、幕末の日常の風景から明治の内戦、文明開化の様相など、浮世絵師が描き出した「江戸」から「東京」への移り変わりをご覧ください。

会期	令和 2 年 3 月上旬～ 3 月下旬
観覧料	500 円（ただし高校生以下、障がい者とその介護者 1 名は無料）

<主な出展作品>



大蘇芳年 藤原保昌 月下弄笛図

(※大蘇芳年は、月岡芳年が晩年に用いた画号)



小林清親 新橋ステーション

※ 各展覧会の内容は今後変更となる可能性があります。詳細が決まり次第、別途お知らせします。